

# 東北地方 3か月予報

( 11月から1月までの天候見通し )

平成17年10月25日  
仙台管区气象台発表

## < 予想される向こう3か月の天候 >

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

この期間の平均気温は平年並か高い、降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並が多い、東北日本海側の降雪量は平年並か少ないでしょう。

11月 天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雨の日が少なく、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

気温は高い、降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並が多いでしょう。

12月 冬型の気圧配置となる日が多く、時々寒気の影響を受けるでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温は平年並、降水量は平年並でしょう。

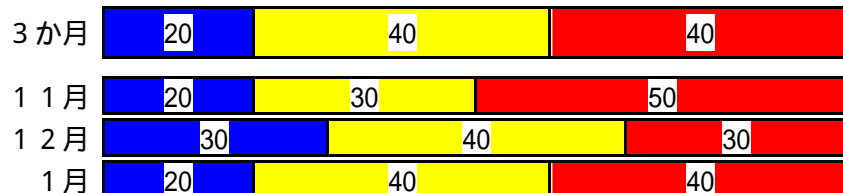
1月 冬型の気圧配置となる日が多いですが、寒気の南下は弱いでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

気温は平年並か高い、降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並が多いでしょう。

## < 向こう3か月の気温、降水量、降雪量の各階級の確率(%) >

### << 気温 >>

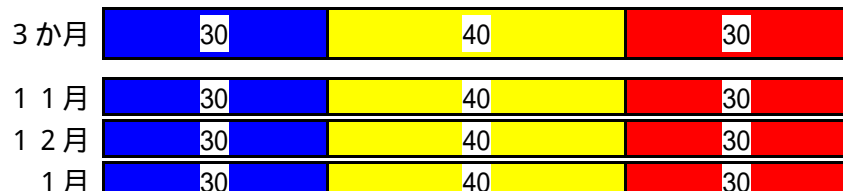
[東北地方]



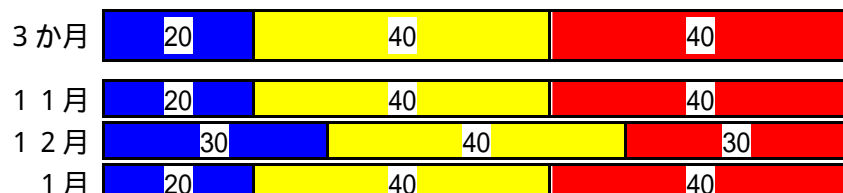
低い 平年並 高い

### << 降水量 >>

[東北日本海側]



[東北太平洋側]



< <降雪量> >

[東北日本海側]

3 か月



少ない



平年並



多い

< 次回発表予定等 >

1 か月予報：毎週金曜日 14 時 30 分発表 次回は 10 月 28 日

3 か月予報：11 月 24 日（木曜日） 14 時 00 分

なお、最近の天候経過と新しい予測資料をふまえた寒候期の天候について検討しましたが、9 月 22 日に発表した寒候期予報の内容に変更ありません。

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）平年値（月・３か月平均気温、降水量、降雪量）

	気 温 ( )				降 水 量(mm)				降 雪 量(cm)			
	11月	12月	1月	11～1月	11月	12月	1月	11～1月	11月	12月	1月	11～1月
大船渡	8.2	3.5	0.7	4.1	104.5	36.9	43.5	186.5	2	11	23	36
新庄	6.2	1.4	-1.3	2.1	195.4	210.9	181.4	587.5	28	168	283	483
若松	7.0	1.9	-0.7	2.7	73.3	83.3	80.9	239.0	9	100	185	297
深浦	7.5	2.5	-0.4	3.2	147.2	126.2	96.9	367.4	13	77	123	215
青森	6.4	1.3	-1.4	2.1	131.7	148.6	144.9	425.4	40	170	250	463
むつ	6.3	1.2	-1.6	2.0	115.4	93.3	96.0	304.4	21	101	175	302
八戸	6.6	1.6	-1.2	2.4	61.2	41.7	48.2	150.1	8	52	95	154
秋田	7.6	2.8	-0.1	3.4	183.5	163.8	114.4	459.4	13	79	142	236
盛岡	5.7	0.8	-2.1	1.4	93.1	64.5	50.6	206.9	11	68	106	187
宮古	7.7	3.0	0.2	3.7	85.6	39.9	52.6	176.4	1	19	43	63
酒田	9.0	4.3	1.5	4.9	223.9	201.9	152.6	582.9	10	64	138	213
山形	7.2	2.4	-0.5	3.0	80.8	77.2	75.4	233.8	12	92	163	269
仙台	9.1	4.3	1.5	4.9	66.8	26.4	33.1	128.8	1	14	29	43
石巻	8.3	3.4	0.5	4.1	65.1	24.8	33.1	123.4	1	7	13	21
福島	9.0	4.2	1.4	4.8	63.4	32.5	43.8	140.2	2	35	86	125
白河	7.6	2.7	0.2	3.5	65.0	25.0	30.6	121.3	2	25	58	87
小名浜	10.8	6.1	3.6	6.8	87.7	35.0	46.2	174.1	0	1	5	5

（２）1971～2000年のデータに基づいた11～1月地域平均の気温、降水量、降雪量の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要 素	予報対象地域	11月	12月	1月	11～1月
気温平年差（ ）	東北地方	-0.3～+0.5	-0.3～+0.5	-0.3～+0.8	-0.3～+0.5
	東北日本海側	-0.3～+0.5	-0.2～+0.6	-0.3～+0.7	-0.2～+0.5
	東北太平洋側	-0.3～+0.6	-0.1～+0.5	-0.3～+0.8	-0.2～+0.5
降水量平年比(%)	東北地方	80～107	80～107	81～103	86～105
	東北日本海側	92～103	88～106	93～109	94～101
	東北太平洋側	68～111	69～116	62～104	80～104
降雪量平年比(%)	東北地方	45～86	72～112	85～106	76～108
	東北日本海側	45～114	78～113	96～110	84～104
	東北太平洋側	27～60	57～114	72～102	74～115

< 参考資料（利用上の注意） >

- （１）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の３つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分（それぞれ33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。
- （２）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10％以下や60％以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。
- （３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1より多い（少ない）ことを意味します。

# 東北地方 3か月予報解説資料 (11～1月)

平成 17 年 10 月 25 日 仙台管区气象台

## 1. 数値予報（アンサンブル予報）による大気の流れの予想

### 3 か月平均の 500hPa 高度と偏差の予想図（右図）：

日本付近を含め北半球の中緯度帯は広く正偏差で高温傾向が予想される。

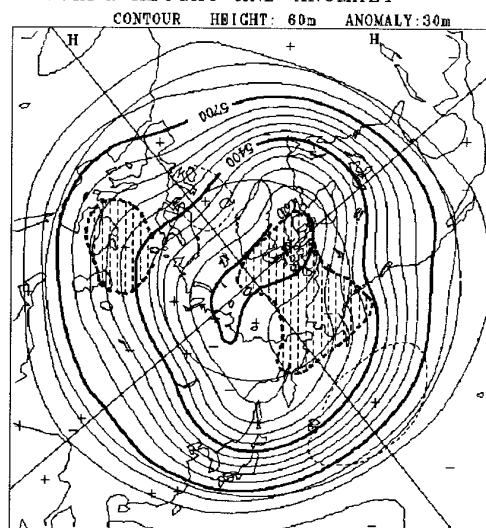
月別の地上気圧と偏差の予想図（下図。なお、予想図の精度は予想対象期間が先になるほど低下します。）：

11 月：日本の東海上で高気圧が強く、日本付近は暖かい空気が入りやすい。日本付近の等圧線はまばらで低気圧と高気圧が交互に通過する見込み。冬型の気圧配置にはなりにくく寒気の影響は小さい。気温は高く、平年に比べると東北日本海側は晴れの日が多く、東北太平洋側は曇りや雨の日が多い見込み。

12 月：日本付近は北日本中心に冬型の気圧配置。北日本には寒気が南下する見込み。

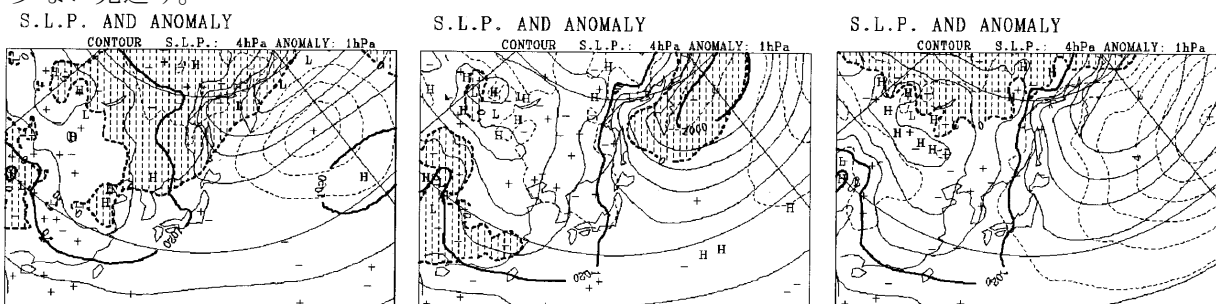
1 月：冬型の気圧配置だが、東海上の低圧部は平年より弱く、強い冬型の気圧配置にはなりにくい。寒気の南下は弱く高温傾向。天気は東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では気圧の谷の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ない見込み。

### 3 MONTH MEAN (11/ 1- 1/31) N:31 500hPa HEIGHT AND ANOMALY



### 3 か月平均の 500hPa 高度と偏差の予想図

等高度線：60m、偏差：30m、陰影部：負偏差

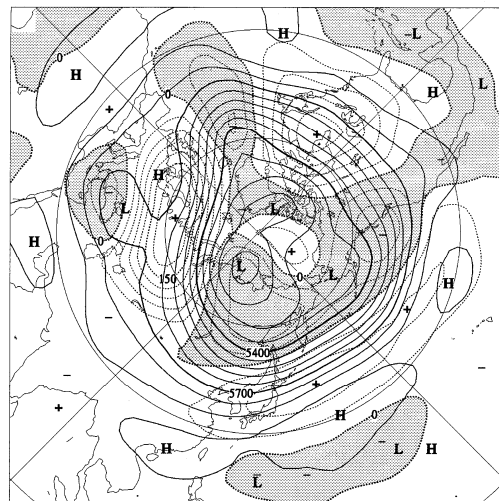


### 月別の地上気圧と偏差の予想図（左から 11 月、12 月、1 月）

等圧線：4hPa、偏差：1hPa、陰影部：負偏差

## 2. 循環場の特徴

10 月 1～20 日：500hPa 高度では、極付近で負偏差となっており寒気が蓄積している。一方中緯度では正偏差が続いており、暖かい空気に覆われている。特に北米東部、ロシア、日本の東で正偏差が強く、東北地方も高温となった。



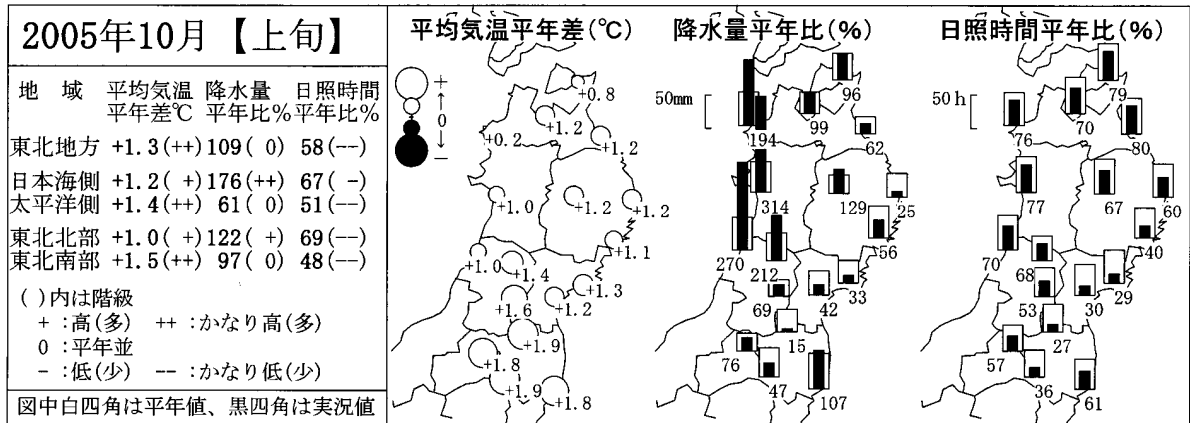
### 10 月 1～20 日平均 500hPa 高度

等高度線：60m、偏差：30m、陰影部：負偏差

### 3. 最近の天候経過

10月上旬：前線や気圧の谷、北に偏った高気圧からの湿った東風の影響で曇りや雨の日が多かった。1～2日は前線が東北地方をゆっくり南下したため東北日本海側では大雨となった。

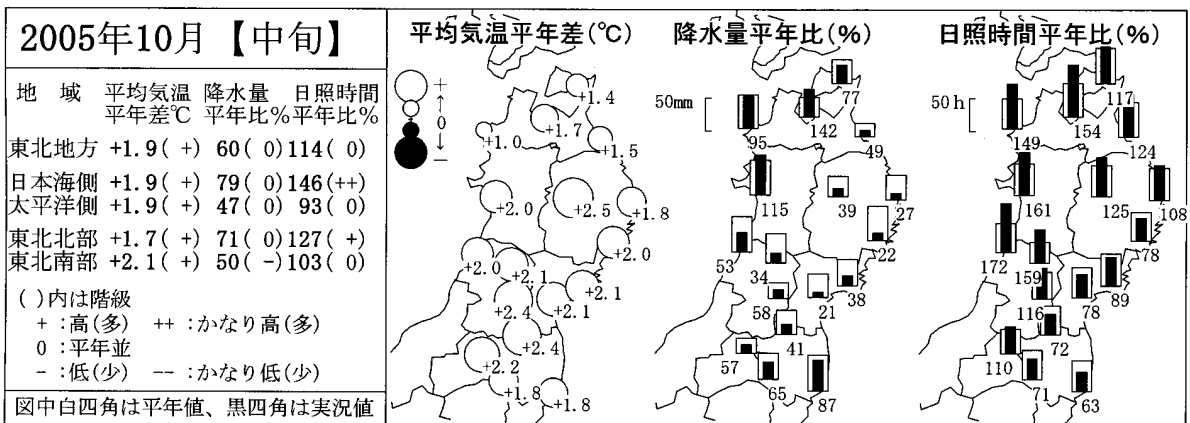
平均気温は東北北部で高く、東北南部でかなり高い。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。



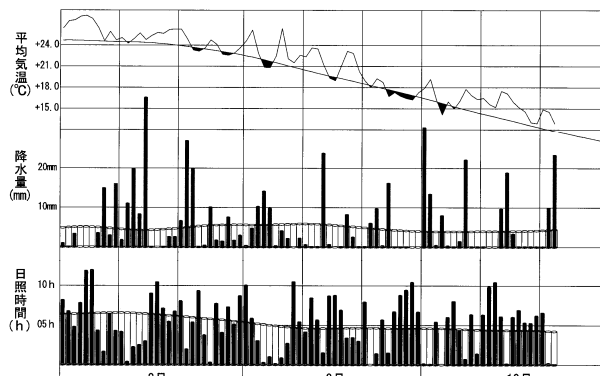
東北地方における10月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差(比)

10月中旬：東北日本海側や東北北部では天気は数日の周期変化し、晴れの日が多かった。東北太平洋側の南部では、東海上の高気圧からの湿った東風や、関東の南海上を北東進した台風第20号、関東付近に停滞した前線の影響で曇りや雨の日が多かった。

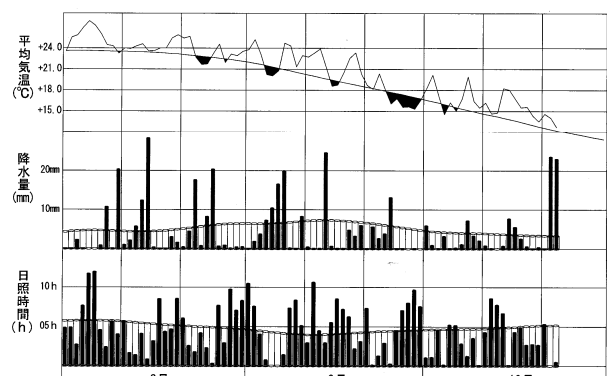
平均気温は東北地方で高い。降水量は東北北部で平年並、東北南部で少ない。日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。



東北地方における10月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差(比)



東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均(気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱)

#### 4. 太平洋赤道域の海水温等の状況、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

[エルニーニョ監視速報](#) (No. 157) より抜粋。(気象庁ホームページ：<http://www.jma.go.jp/>)

太平洋赤道域の海面水温は、中部で正偏差が続いたが、東部では負偏差が広がった。海洋表層(海面から深度数百mまでの領域)では、東部で水温の負偏差が卓越した。大気下層では9月前半に東風偏差が見られた。

エルニーニョ監視海域の海面水温は、秋から冬にかけてほぼ基準値(1961～1990年の30年平均値)に近い値で推移するとみられる。予測期間中にエルニーニョ現象やラニーニャ現象が発生する可能性は低い。

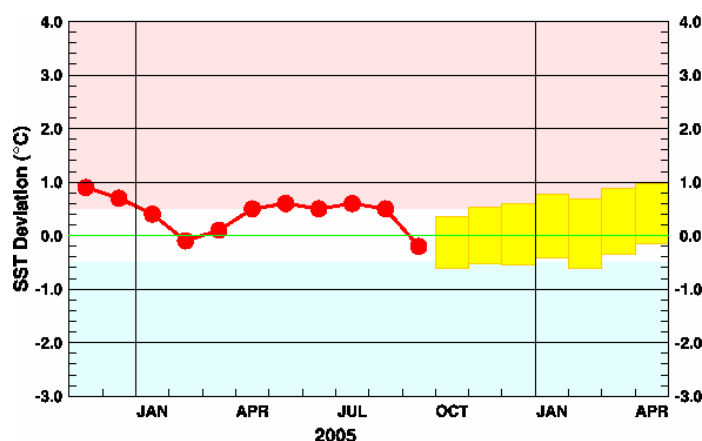
##### 【解説】

9月の太平洋赤道域の海面水温は、中部で正偏差が続いたが、東部では負偏差が広がった。9月のエルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差は、8月の+0.5℃から-0.2℃に減少した(右図)。海洋表層においても、東部で水温の負偏差が卓越した。

このような海洋の変化は、9月前半に太平洋赤道域ほぼ全域の大気下層で東風偏差になったために生じたと考えられる。しかし、その東風偏差は下旬には西風偏差に転じた。また、太平洋赤道域の表層水温には、東部で負偏差域の、西部で正偏差域の東進が認められるものの、それらの偏差の大きさは小さく、今後監視海域の海面水温の基準値との差を大きく変化させるには至らないと考えられる。このように、現在の太平洋赤道域では大気・海洋とも平年に近い状況にあり、直ちにエルニーニョ現象あるいはラニーニャ現象に向かう兆候は見られない。

エルニーニョ予測モデルは、監視海域の海面水温が秋から冬にかけてほぼ基準値に近い値で推移すると予測している(上図)。

以上のことから、監視海域の海面水温は秋から冬にかけてほぼ基準値に近い値で推移するとみられ、予測期間中にエルニーニョ現象やラニーニャ現象が発生する可能性は低いと判断される。



エルニーニョ予測モデルによるエルニーニョ監視海域の海面水温予測(基準値との差)

この図は、エルニーニョ監視海域の海面水温(基準値との差)の先月までの推移(折れ線グラフ)とエルニーニョ予測モデルから得られた今後の予測(ボックス)を示している。各月のボックスは、海面水温の基準値との差が70%の確率で入る範囲を示す。(基準値は1961～1990年の30年平均値)

#### 5. 寒候期予報の見直しについて

最近の天候経過と新しい予測資料をふまえ寒候期の天候について検討しましたが、9月22日に発表した寒候期予報の内容に変更はありません。

##### <参考資料>

平年の天気出現日数(日)

	11月		12月		1月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	9.2	17.7	5.4	18.7	5.3	19.7
雨の日	15.8	8.1	19.1	6.6	19.6	7.1

注：季節予報では、「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」をそれぞれ晴れの日、雨の日の目安として用いている。この2つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。なお、日照率は1日の日照時間を可照時間(太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間)で割った値である。